

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育ルームりんごの木こぐれ教室【児童発達支援】			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 7日		～	2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2025年 3月 3日		～	2025年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 11日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団(4名程度)による活動で、より丁寧に子どもの状況に応じた支援ができること	活動プログラムの中でも、個々に合わせた対応ができるよう、進行や内容に配慮しています。活動内容は1ヵ月ごとに新しいものに変更していますが、全ての内容を一度に変えるのではなく、部分的に変えるようにしています。継続性を持たせることで、お子さんが見通しの立つ中で自信を持って取り組めるよう配慮しています。「楽しい」と感じられる活動の中で「できた」という経験を重ねていけるよう支援を行っています。	・今後もお子さんが自発的に参加したいと思える活動プログラムの立案を行っていきます。 ・活動のねらいや対応について保護者との共有が深まるよう、より良いフィードバックの方法を検討していきます。
2	多機能型事業所であるため、就学後も継続して支援を行うことができる	同事業所内で放課後等デイサービス事業もおこなっているため、就学後も支援を継続することができます。	・事業所内の放課後等デイサービス利用の有無に関わらず、就学に向けての移行がスムーズに行えるよう取り組んでいきます。 ・就学に向けての関係機関との情報共有や、保護者からの相談に応じ、お子さんご家族も安心して就学できるような体制を整えていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が限定されている	利用されている全てのお子さんが保育園・幼稚園に通われています。これまで、事業所を利用されているお子さんの在籍国との情報共有・参観の機会はありませんでしたが、地域のお子さんとの交流機会は実施できていない状況です。	・地域のお子さんとの交流については、保護者の方のニーズも伺いながら、どのような方法があるのか検討していきます。 ・法人として、地域に向けた研修会や行事を行い、地域との交流機会がもてるよう取り組んでいきます。
2	児童発達支援の開設枠が限られている	当事業所は多機能型事業所であるため、午後は放課後等デイサービスの事業を行っています。そのため、児童発達支援を行える時間帯が午前中のみとなっており、保育園や幼稚園の行事などで、療育をお休みをせざるを得ないというご意見もいただいています。	・病欠や通園先の行事などによる欠席の場合に配慮し、振替枠の設定を行い、お子さんが継続して療育を受けられるよう配慮いたします。